３．定点把握対象感染症患者報告状況（週報）

（１）過去 5 年間の報告状況

疾患名	2014 年 （平成 26 年）	2015 年 （平成 27 年）	2016 年 （平成 28 年）	2017 年 （平成 29 年）	2018 年 （平成 30 年）
インフルエンザ	9,668	8,574	9,808	10,178	12,318
RS ウイルス感染症	1,838	1,679	1,976	2,044	1,684
咽頭結膜熱	582	453	448	718	466
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	894	1,418	1,347	2,229	1,729
感染性胃腸炎	7,894	7,411	9,708	6,737	6,511
水痘	889	544	300	352	259
手足口病	184	4,191	332	2,041	1,212
伝染性紅斑	47	197	343	92	200
突発性発しん	934	862	798	858	848
ヘルパンギーナ	911	428	876	687	817
流行性耳下腺炎	51	179	1,399	817	110
急性出血性結膜炎	－	－	1	1	－
流行性角結膜炎	15	23	30	43	58
細菌性髄膜炎	1	3	2	－	4
無菌性髄膜炎	1	3	3	2	3
マイコプラズマ肺炎	26	43	57	13	26
クラミジア肺炎	－	－	1	－	1
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	32	40	58	12	2

（２） 各疾病の報告状況

① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

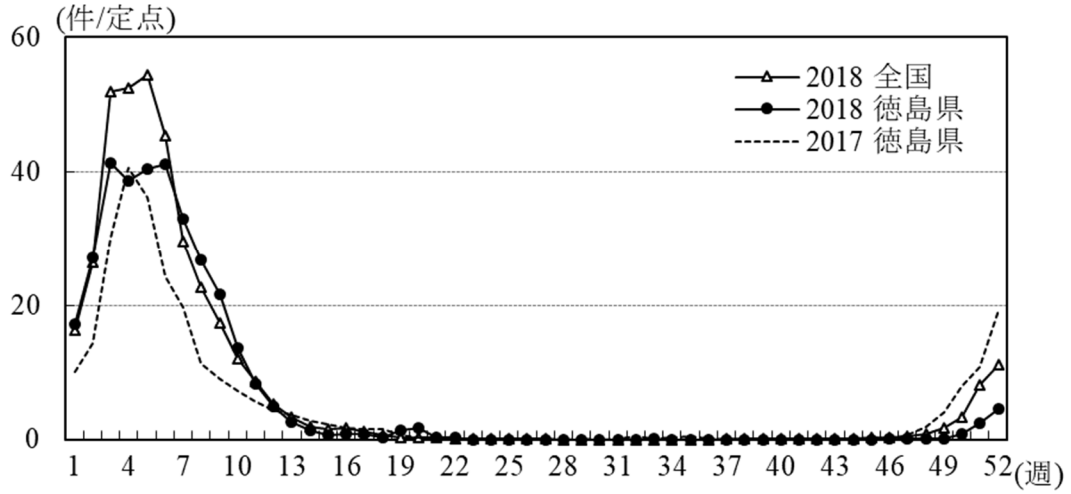
2018 年の年間報告数は 12,318 件であり、前年（10,178 件）より増加した。

本年の前期流行は、2017 年第 48 週に流行期入りした後、2018 年第 3 週でピーク（41.19 件／定点）を迎え、第 6 週（41.05 件/定点）まで高い状態が続き、以後減少した。ピークの高さは前年（40.54 件／定点）より高かった。報告数が注意報レベル（10 件／定点）を超えた期間（第 1～10 週）は、前年（第 1～8 週）と比べ長かった。

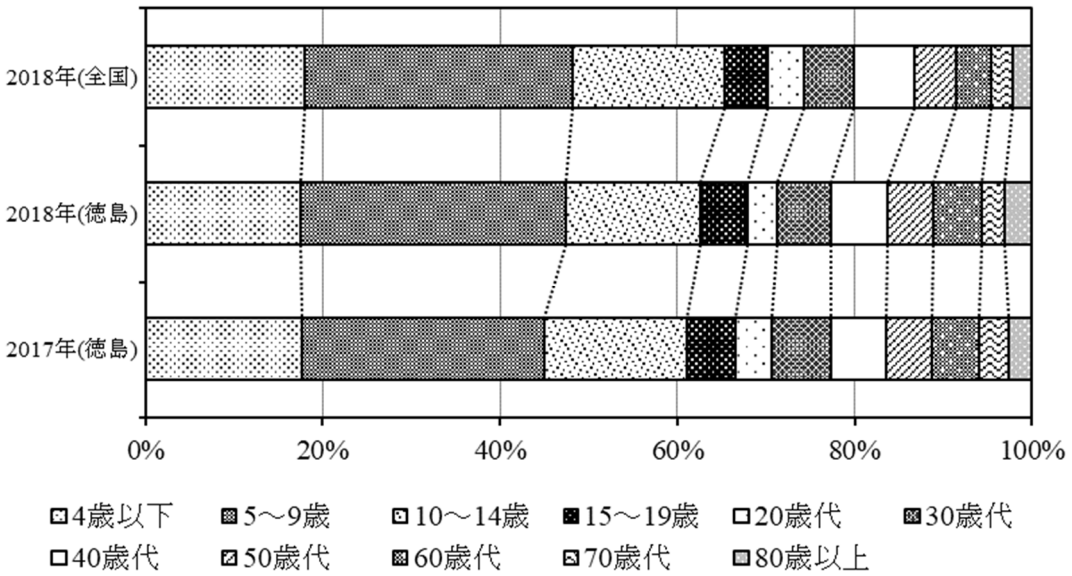
後期流行については、前年より約 3 週遅い第 51 週に流行開始の目安とされる 1.0 件／定点を超え、流行シーズンを迎えた。

年齢層別報告数では、4 歳以下 17.5%、5～9 歳 30.0%、10～14 歳 15.2%、15～19 歳 5.4%、20 歳以上 32.0%であり、前年と比較して年齢別の割合はほぼ変わらなかった。

インフルエンザの週別患者報告状況



インフルエンザの年齢層別報告数



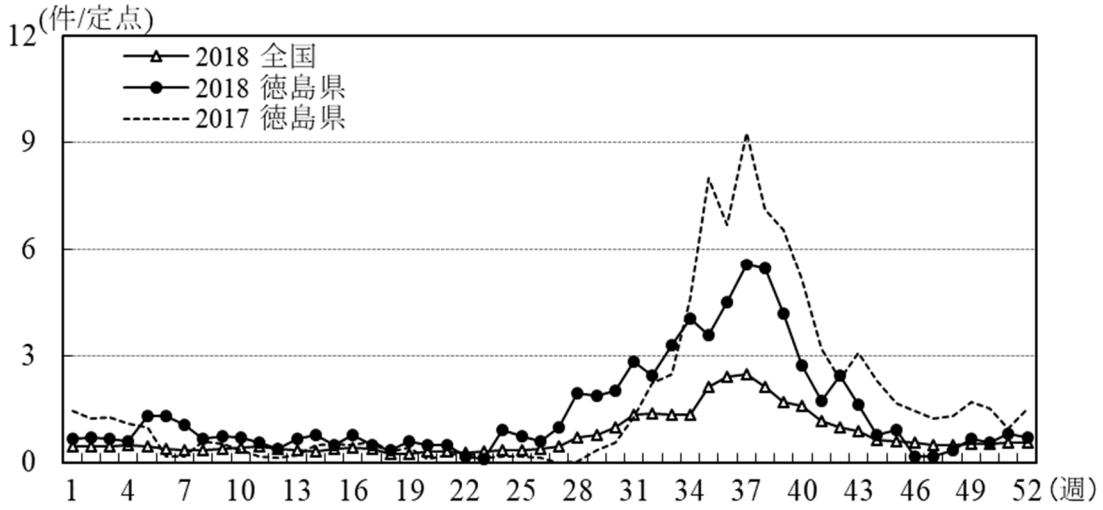
② RS ウイルス感染症

2018 年の年間報告数は 1,684 件であり、前年（2,044 件）より減少した。

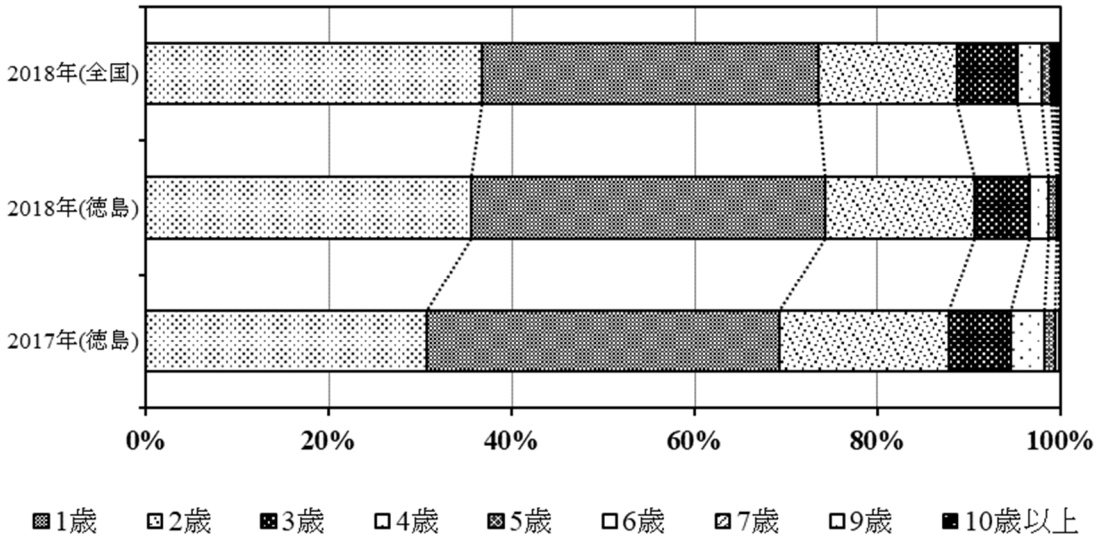
本疾患の流行パターンは、季節性インフルエンザに先行する初秋頃より患者数が増加し始め、冬にピークを示すことが多い。本年は第 5 週から第 7 週にかけて、わずかに前期流行が認められた。後期流行は、例年より約 2 ヶ月程度早い第 28 週頃（7 月中旬）より報告数が増加し始め、第 37 週でピーク（5.6 件／定点）を示した。以降、報告数は減少したものの流行期間は長く、全国を上回る状態が第 45 週まで続いた。

本疾患は 2 歳までの乳幼児からの報告が多く、本年の年齢層別報告数でも、0 歳 35.6%、1 歳 38.6%、2 歳 16.3%、3 歳 6.1%、4 歳以上 3.4%であり、前年と同様に 2 歳以下の乳幼児の割合が大半（約 91%）を占めた。

RS ウイルス感染症の週別患者報告状況



RS ウイルス感染症の年齢層別報告数



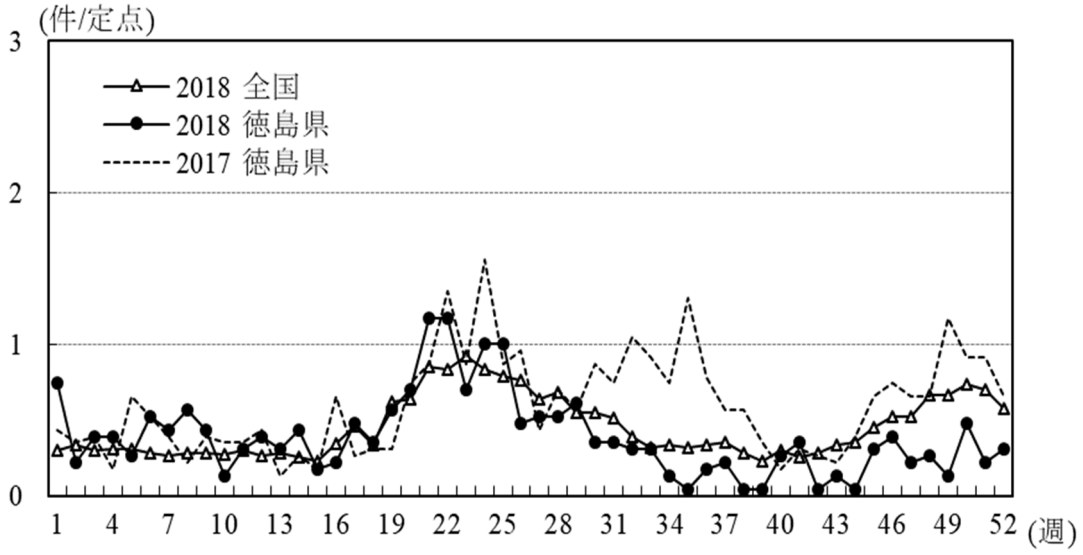
③　咽頭結膜熱

2018 年の年間報告数は 466 件であり、前年（718 件）より大幅に減少した。

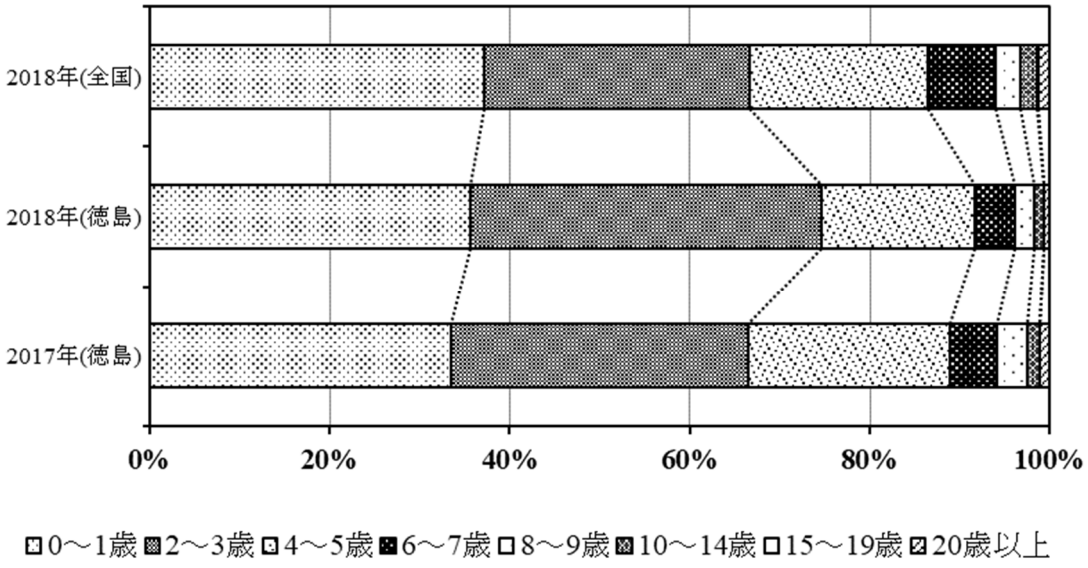
本疾患の流行パターンは、4 月ごろから報告数が増加し始め、7～8 月にピークを示す。秋にも小規模な流行が見られる年もある。本年も 4 月下旬頃より報告数が増加し始め、第 21 週にピーク（1.17 件／定点）を示した。以降はやや減少傾向を示し、報告数に大きな変化はなく越年した。

本疾患は一般的に 4 歳以下の乳幼児からの報告が多く、本年の年齢層別報告数も、1 歳以下 35.6%、2～3 歳 39.1%、4～5 歳 17.0%、6～7 歳 4.5%、8 歳以上 3.8%であり、5 歳以下が約 92%を占めた。

咽頭結膜熱の週別患者報告状況



咽頭結膜熱の年齢層別報告数



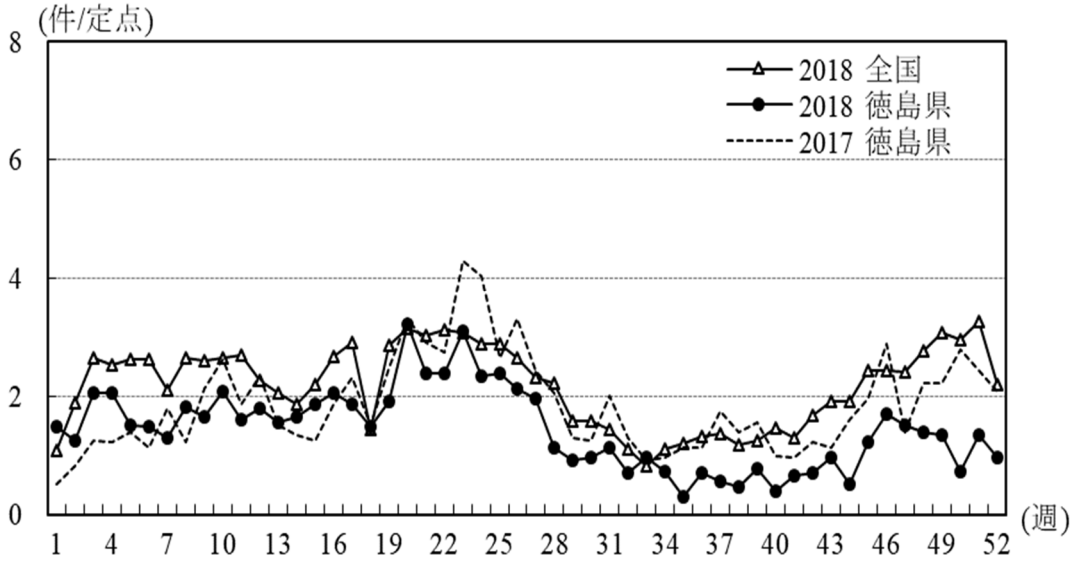
④　A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2018 年の年間報告数は 1,729 件であり、前年（2,229 件）より減少した。

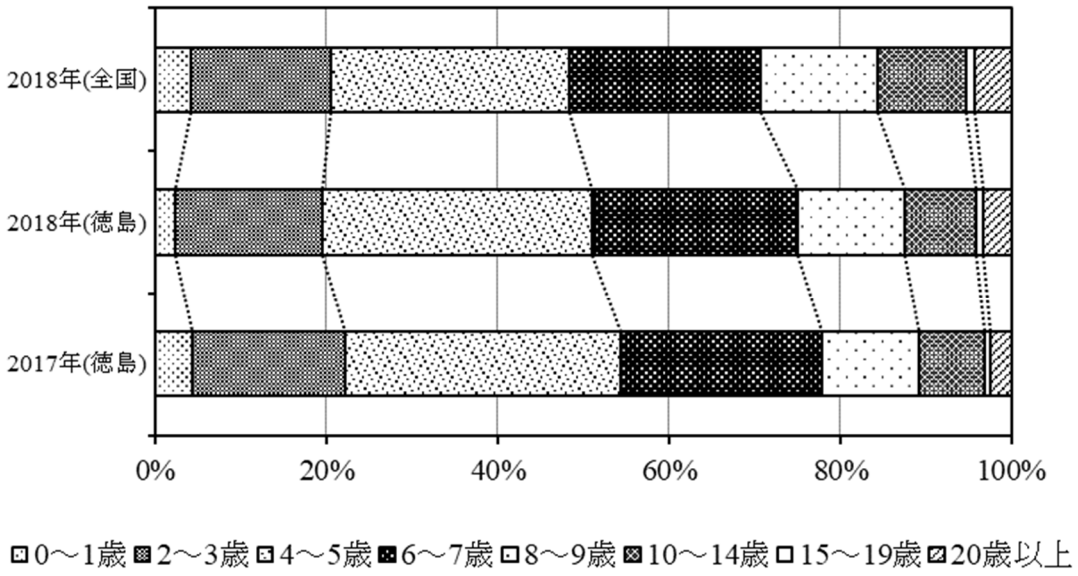
本疾患は、冬季及び春から初夏にかけて報告数が増加するとされる。本年は、前年の流行を継続したまま、やや高い状態が続き、第 20 週（5 月初旬）にピーク（3.22 件／定点）を迎えた。その後は減少し、例年同様の増減傾向を示した。

本疾患は幅広い年齢層から報告されるが、学童期小児からの報告が多いとされる。本年の年齢層別の報告数も、0～1 歳 2.4%、2～3 歳 17.2%、4～5 歳 31.6%、6～7 歳 23.9%、8～9 歳 12.6%、10～14 歳 8.4%、15 歳以上 4.1%と、学童期小児の割合が高かった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別患者報告状況



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢層別報告数



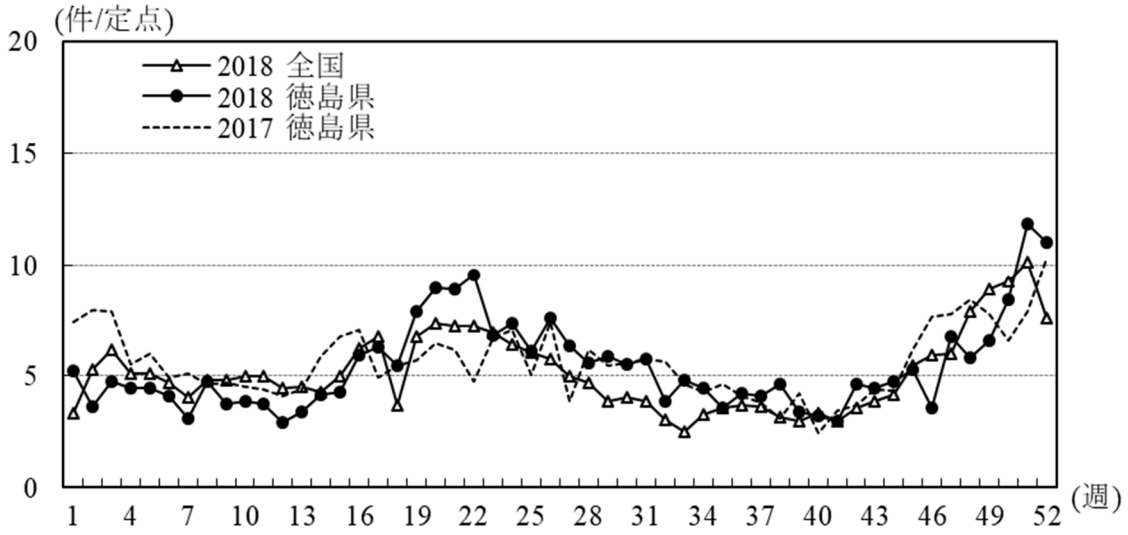
⑤　感染性胃腸炎

2018 年の年間報告数は 6,511 件であり、前年（6,737 件）より減少し、過去 5 年間で最も少なかった。

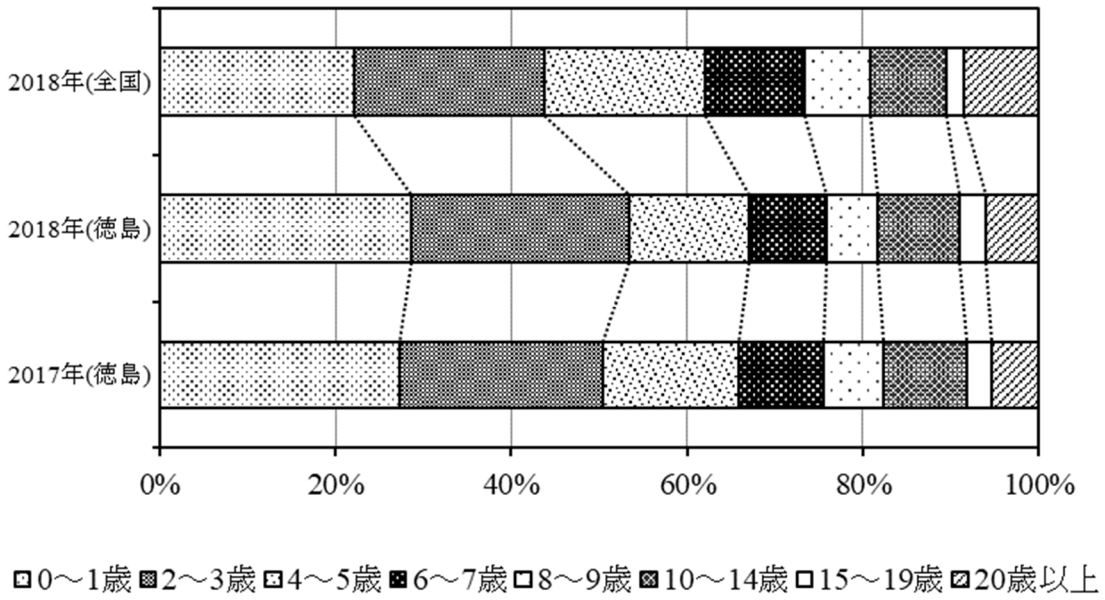
本疾患の流行パターンは、初冬から増加し始め、12～1 月頃に一度ピークが見られた後、春にもう一つなだらかなピークを示すことが多い。本年の前期流行は、第 13 週より増加傾向を示し、第 22 週にピーク（9.5 件/定点）を迎えた後、緩やかに減少した。後期流行は第 47 週（11 月中旬）から報告数が急増し、第 51 週にピーク（11.9 件／定点）が見られた後、高い状態のまま越年した。

年齢層別報告数は、0～1 歳 28.5%、2～3 歳 24.8%、4～5 歳 13.6%、6～7 歳 8.8%、8～9 歳 5.8%、10～14 歳 9.4%、15 歳以上 8.9%と 5 歳以下の乳幼児が全体の約 70%を占めた。

感染性胃腸炎の週別患者報告状況



感染性胃腸炎の年齢層別報告数



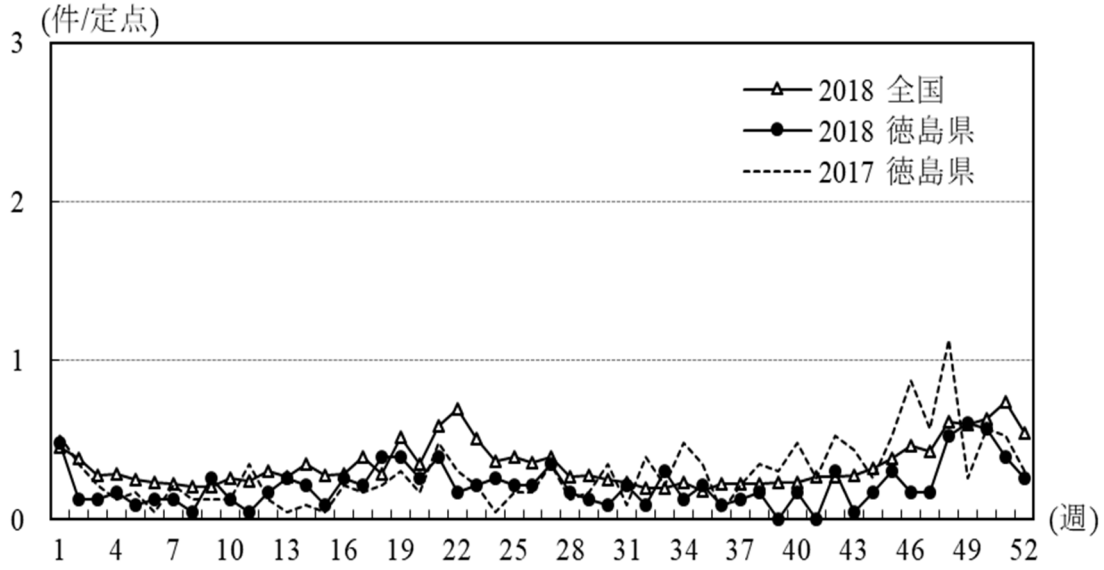
⑥　水痘

2018 年の年間報告数は 259 件と前年（352 件）より減少した。

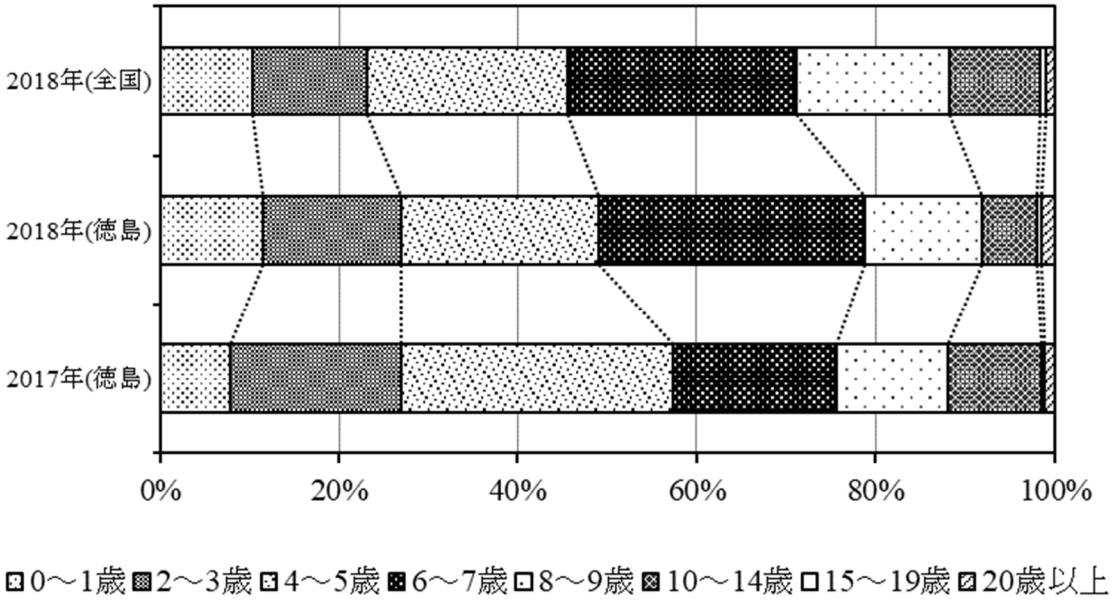
本疾患は年間を通して発生するが、主に冬から春にかけて流行し、夏から初秋は減少するとされる。本年も年間を通して報告され、11 月下旬から県内一部の地域において地域流行がみられたものの明確なピークは見られず、年間を通じて低い報告数（1.0 件／定点以下）のまま推移した。

年齢層別報告数では、0～1 歳 11.6%、2～3 歳 15.4%、4～5 歳 22.0%、6～7 歳 29.7%、8 歳以上 21.2%と 7 歳以下の報告が全体の約 79%を占めた。

水痘の週別患者報告状況



水痘の年齢層別報告数



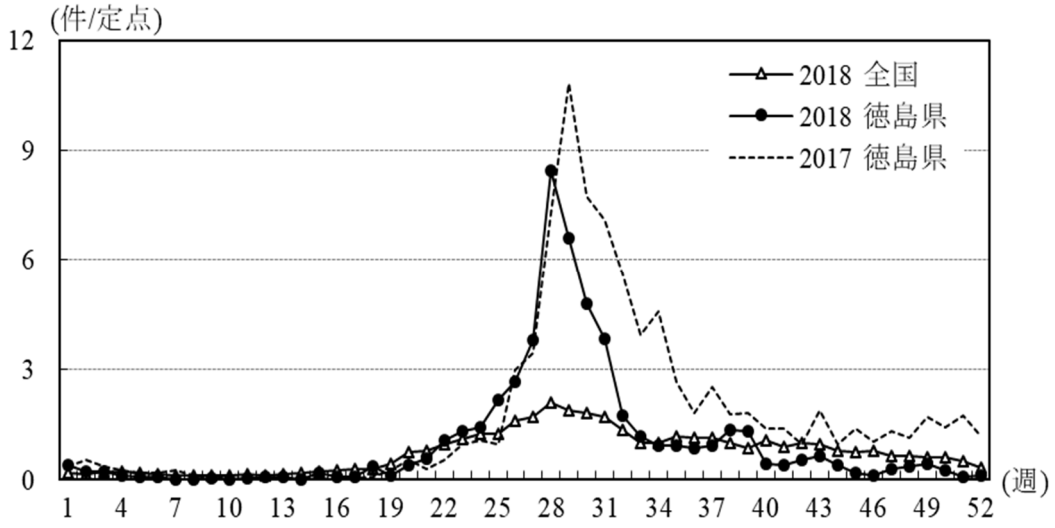
⑦　手足口病

2018 年の年間報告数は 1,212 件であり、前年（2,041 件）より減少した。

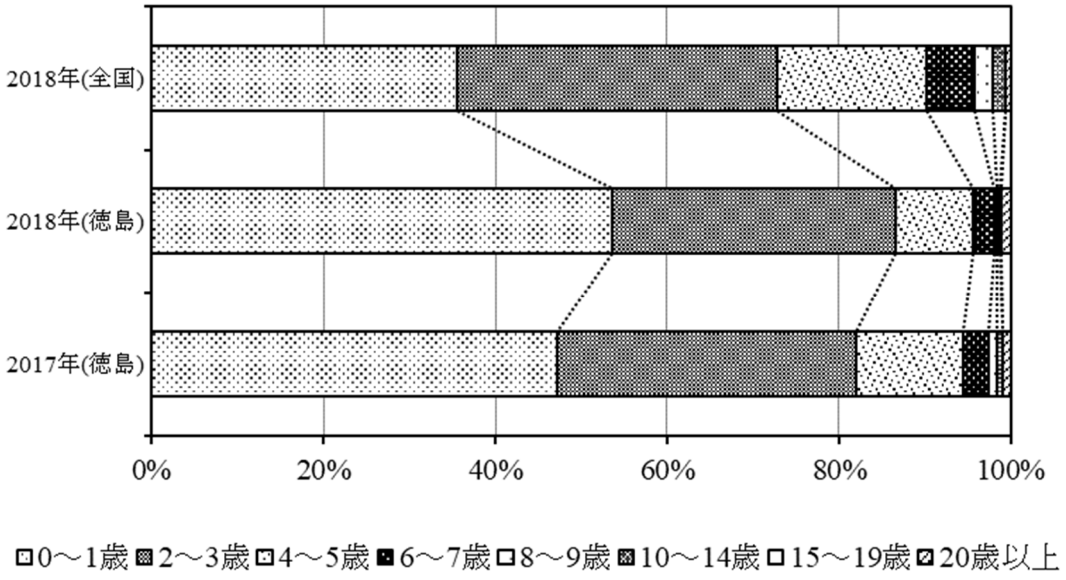
本疾患は夏に流行する代表的な感染症であり、例年 7～8 月にピークを迎える。本年も、5 月下旬頃より報告数が増加し始め、第 25 週から急増し、第 28 週（7 月初旬）にピーク（8.43 件／定点）が見られた後減少した。流行期間は 1 か月程度と短かった。

年齢層別報告数において、例年、5 歳以下の乳幼児からの報告が 9 割を占めており、本年も、0～1 歳 53.6%、2～3 歳 33.0%、4～5 歳 8.9%、6～7 歳 2.6%、8 歳以上 1.9%であり、5 歳以下からの報告が全体の約 96%を占めた。

手足口病の週別患者報告状況



手足口病の年齢層別報告数



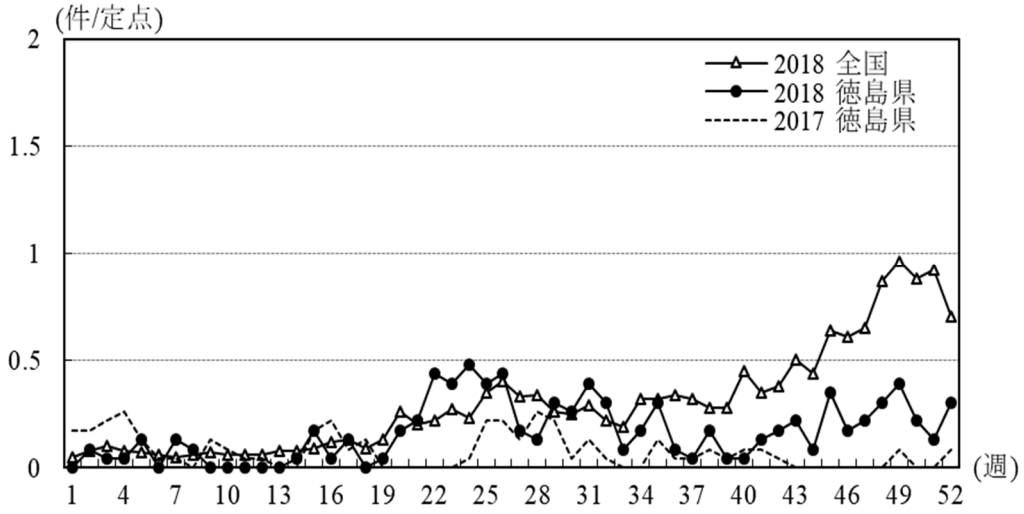
⑧　伝染性紅斑

2018 年の年間報告数は 200 件と、前年（92 件）から大きく増加した。過去 5 年間の報告数の推移では、47～343 件と年により報告数の変化が大きい。

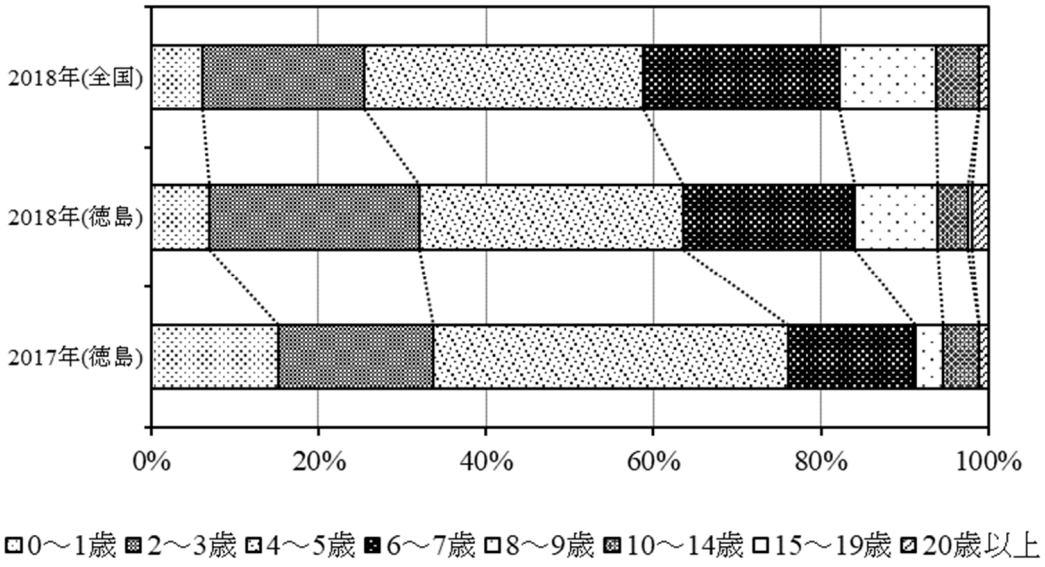
本疾患は、年始頃より 7 月上旬にかけて増加するが、流行の小さい年は季節性が見られないことが多い。本年は、徳島県内では年間を通し、多少の増減を繰り返しながら 0.48 件／定点以下の低値で推移したが、全国では中期から後期にかけて報告数が増加した。ピークや季節的な大きな変動は示さなかったが、6～8 月にかけて県内の一部でのみ地域流行が見られた。

年齢層別報告数では、0～1 歳 7.0%、2～3 歳 25.0%、4～5 歳 31.5%、6～7 歳 20.5%、8～9 歳 10.0%、10 歳以上 6.0%と、2～7 歳の報告が全体の 77%を占めた。

伝染性紅斑の週別患者報告状況



伝染性紅斑の年齢層別報告数



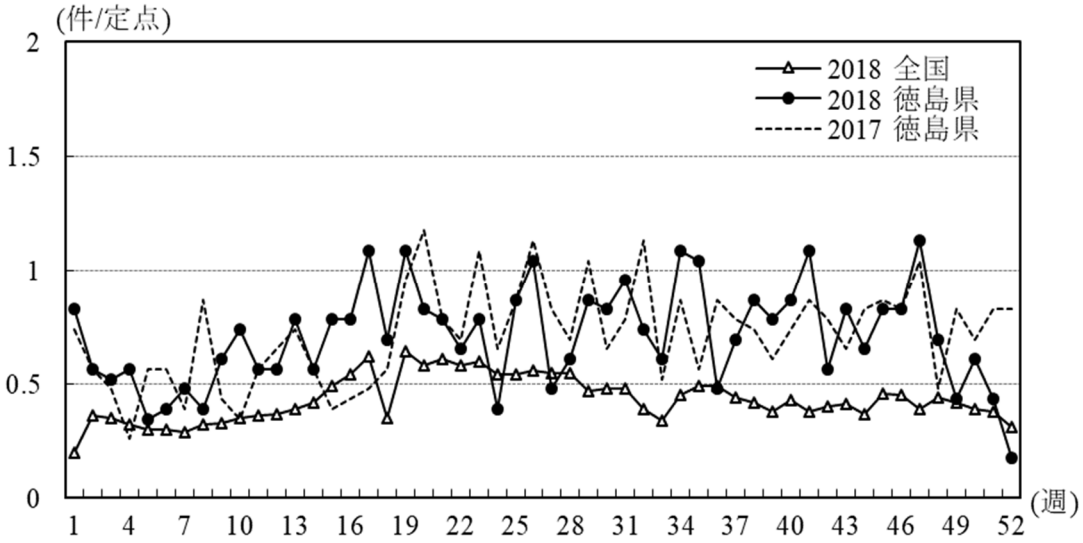
⑨　突発性発しん

2018 年の年間報告数は 848 件であり、前年（858 件）とほぼ横ばいだった。

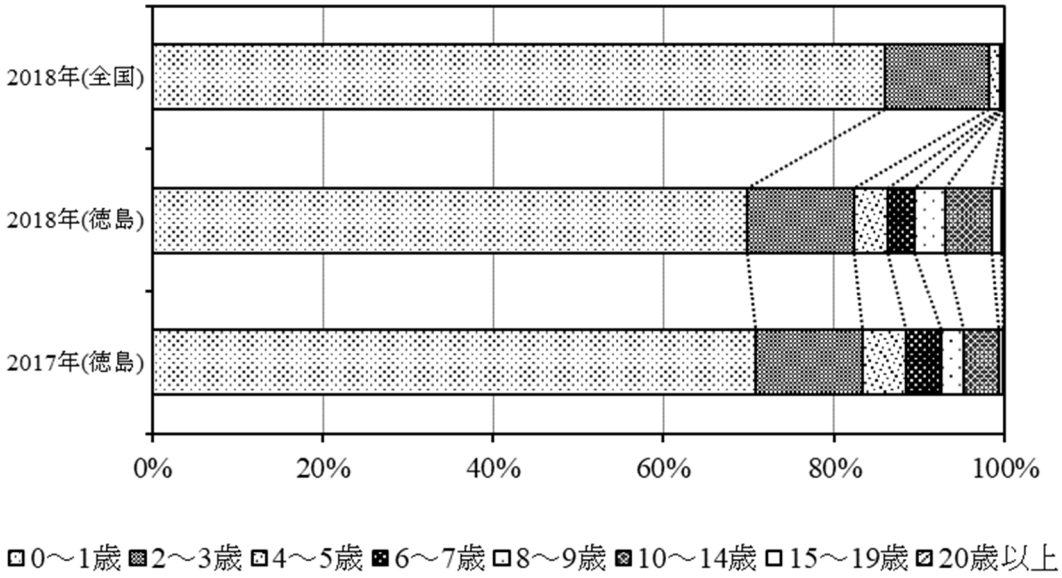
本疾患は、季節性も年次推移も認められず、年間を通じてほぼ一定の範囲内をスパイク状の増減を繰り返しながら推移するとされる。本年もピークは示さず、大きな季節的変動も見られないまま、報告数は一定の範囲内（0.17～1.13 件／定点）で推移した。

年齢別では 6 カ月～1 歳代の小児に好発し､ほとんどの子どもが 3 歳までに感染するといわれている。本年も 0～1 歳 69.8%、2～3 歳 12.5%、4～5 歳 4.0%、6 歳以上 13.7%と、1 歳以下が最も多く報告され、3 歳以下で大半（約 82%）を占めた。

突発性発しんの週別患者報告状況



突発性発しんの年齢層別報告数



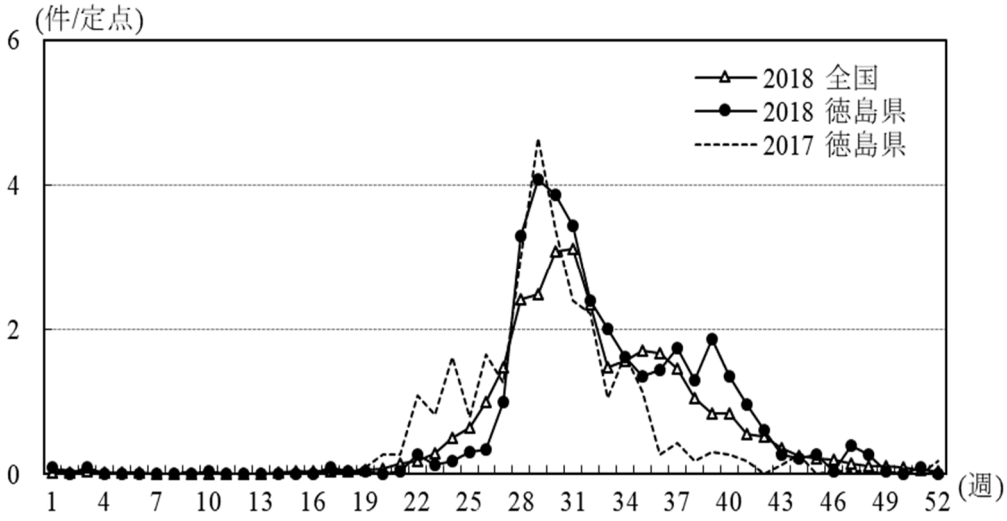
⑩　ヘルパンギーナ

2018 年の年間報告数は 817 件と、前年（687 件）より増加した。過去 5 年間の報告数の推移では、428～911 件と、流行の大きかった年と小さかった年では約 2 倍以上報告数の差が見られる。

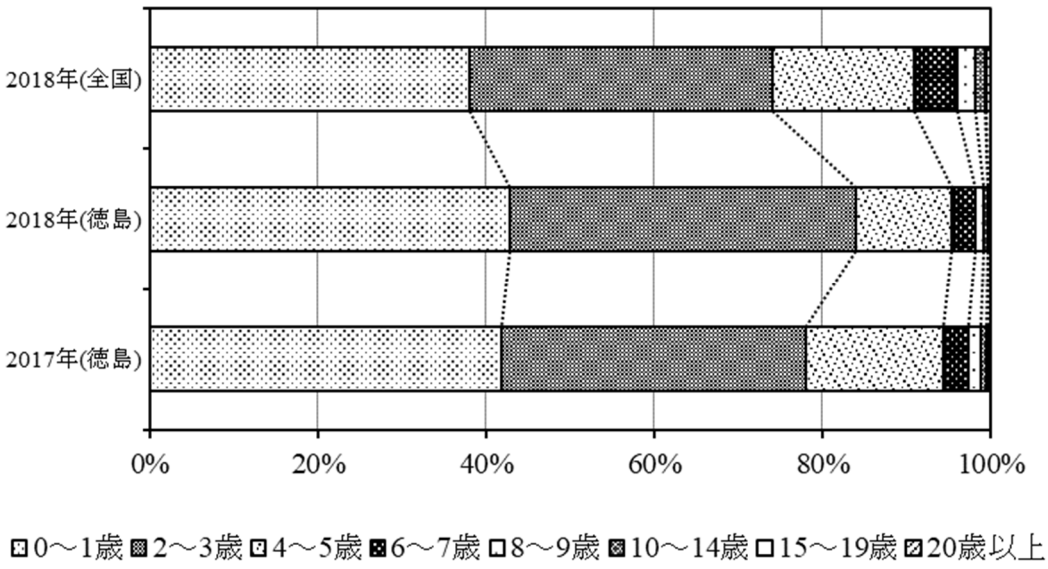
本疾患は、手足口病とともに主に乳幼児の間で流行する夏季の代表的な感染症である。本年は、7 月初旬（第 27 週頃）より報告数が急増し、第 29 週にピーク（4.09 件／定点）を示した。前年と比べピークはやや低かったが、7 月中旬～9 月中旬（第 28 週～第 37 週）にかけて、県内の一部地域において、地域流行が見られた。

年齢層別報告数では、5 歳以下が大半を占め、1 歳代が最も多いといわれている。本年も、1 歳以下 42.8%、2～3 歳 41.1%、4～5 歳 11.4%、6～7 歳 2.9%、8 歳以上 1.7%であり、3 歳以下の乳幼児が約 84%を占めた。

ヘルパンギーナの週別患者報告状況



ヘルパンギーナの年齢層別報告数



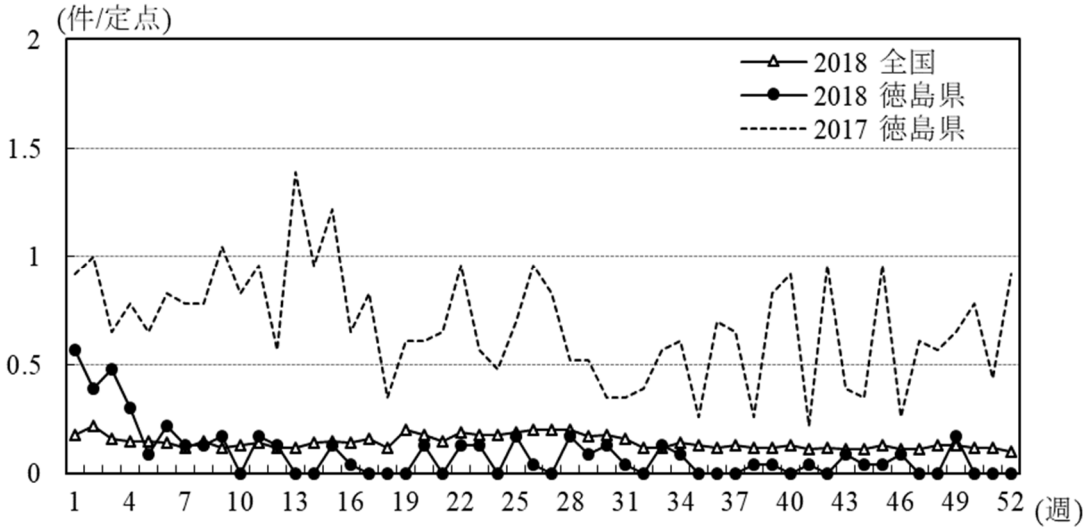
⑪　流行性耳下腺炎

2018 年の年間報告数は 110 件と、前年（817 件）から大幅に減少した。過去 10 年間では 2005～2006 年、2010～2011 年、2016～2017 年と、数年おきに大きな流行が見られている。

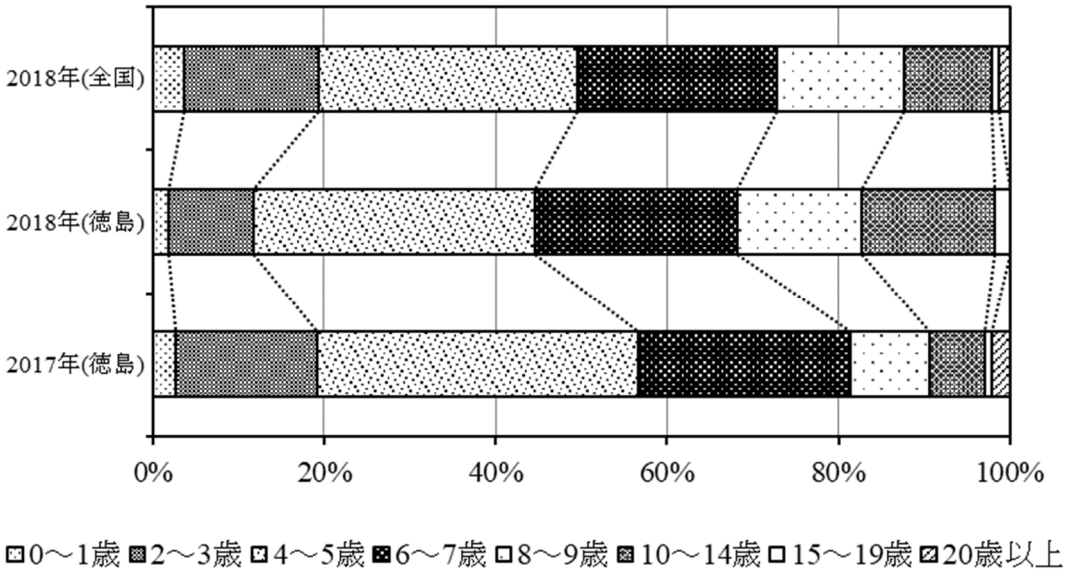
本疾患は年間を通して発生するが、晩冬から春にかけて増加するとされる。本年は、前年末の流行を継続した状態から始まったが、年間を通しての報告数は低値（0～0.57 件／定点）で推移し、季節的な特徴も見られなかった。

年齢層別報告数では、0 歳から 4 歳まで年齢を重ねるとともに増加し、5 歳以降は年齢とともに減少するとされている。本年も、1 歳以下 1.8%、2～3 歳 10.0%、4～5 歳 32.7%、6～7 歳 23.6%、8～9 歳 14.5%、10 歳以上 17.3%であり、4～7 歳の幼小児からの報告数が約 56%を占めた。

流行性耳下腺炎の週別患者報告状況



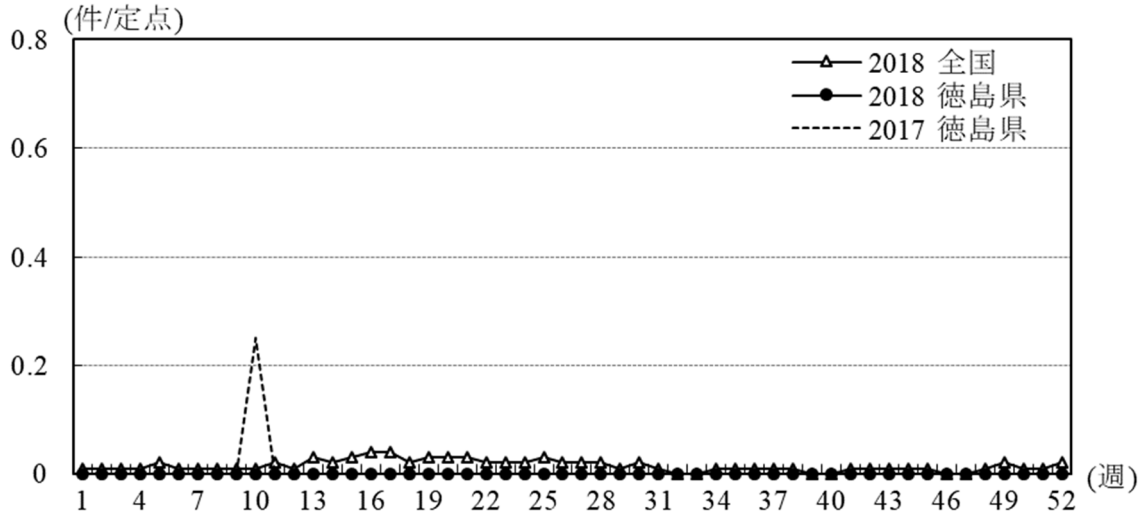
流行性耳下腺炎の年齢層別報告数



⑫　急性出血性結膜炎

本疾患は局地的に流行することがあるが、流行のない年は季節性も見られず、報告数は低いまま微増微減を繰りかえすとされる。2018 年の年間報告数は 0 件であった。過去 5 年間でも毎年 0～1 件で推移し、徳島県内での流行は見られていない。

急性出血性結膜炎の週別患者報告状況

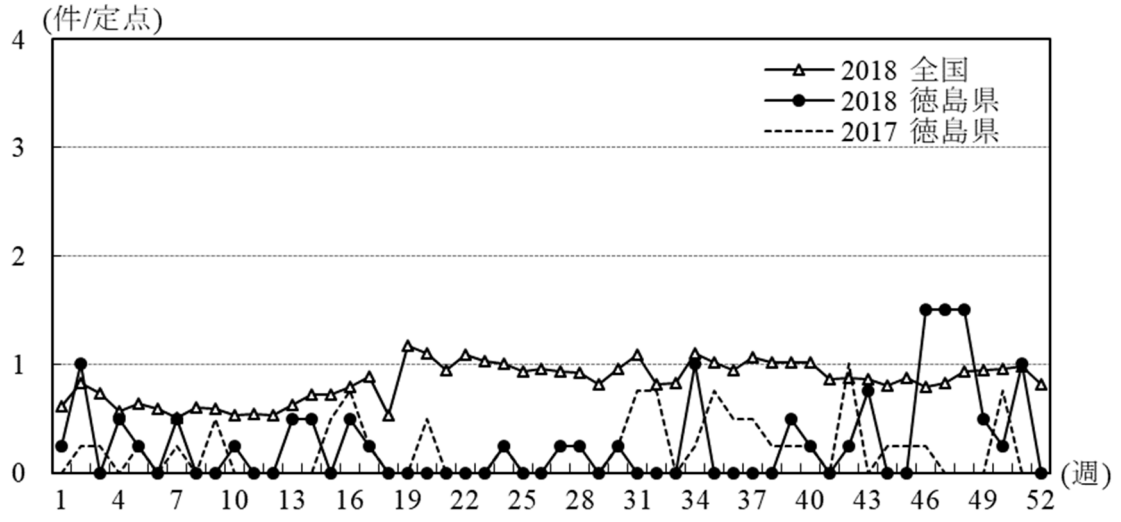


⑬　流行性角結膜炎

2018 年の年間報告数は 58 件と前年（43 件）から増加した。過去 5 年間では一番多い報告数となり、全国でも同様であった。第 46 週～第 48 週（11 月）に県内の一部地域において地域流行が見られたが、季節的な変化はなく、年間を通して低値（1.5 件／定点以下）で推移した。

年齢層別報告数では、10 歳未満 15.5%、10 歳代 8.6%、20 歳代 10.3%、30 歳代 20.7%、40 歳代 12.1%、50 歳代 12.1%、60 歳代以上 20.7%と幅広い年齢層から報告された。

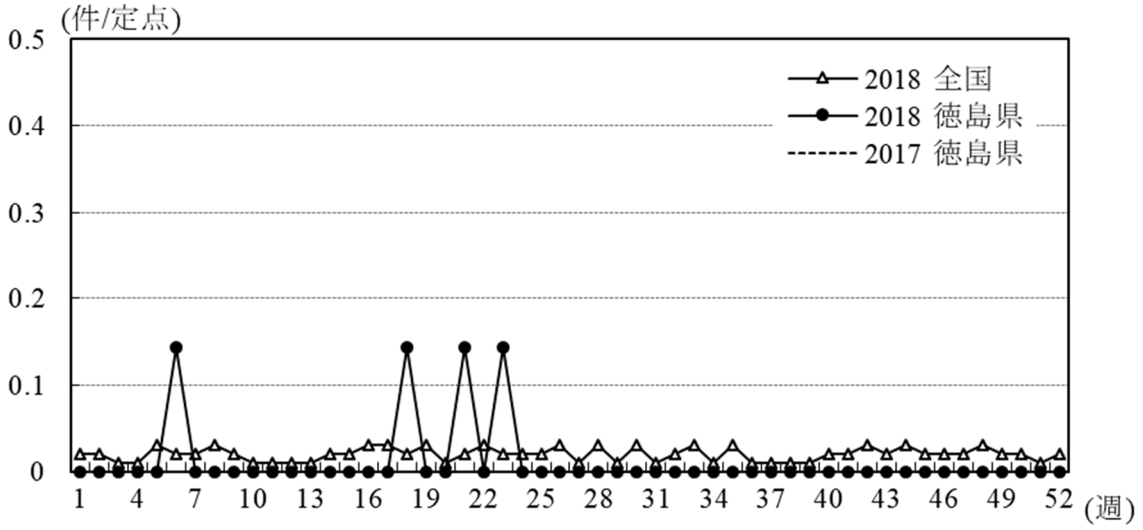
流行性角結膜炎の週別患者報告状況



⑭　細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）

2018 年の年間報告数は 4 件（0～80 歳代）であった。病原体は 2 件から黄色ブドウ球菌が検出されている。過去 5 年間では、毎年 0～3 件で推移している。

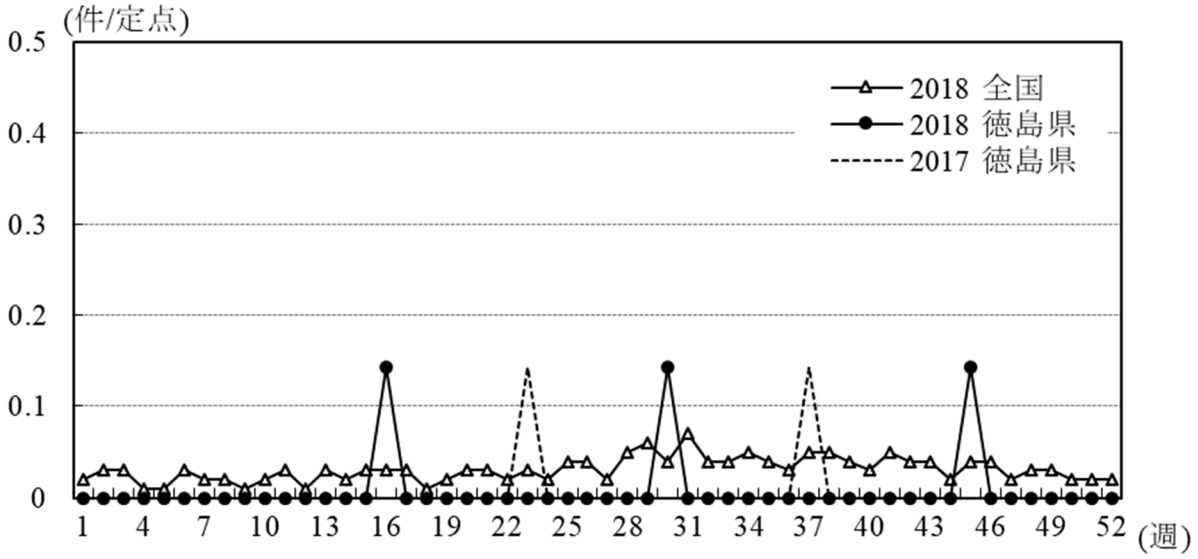
細菌性髄膜炎の週別患者報告状況



⑮　無菌性髄膜炎

2018 年の年間報告数は 3 件（40 歳代、60 歳代）であり、過去 5 年間では毎年 1～3 件で推移している。

無菌性髄膜炎の週別患者報告状況



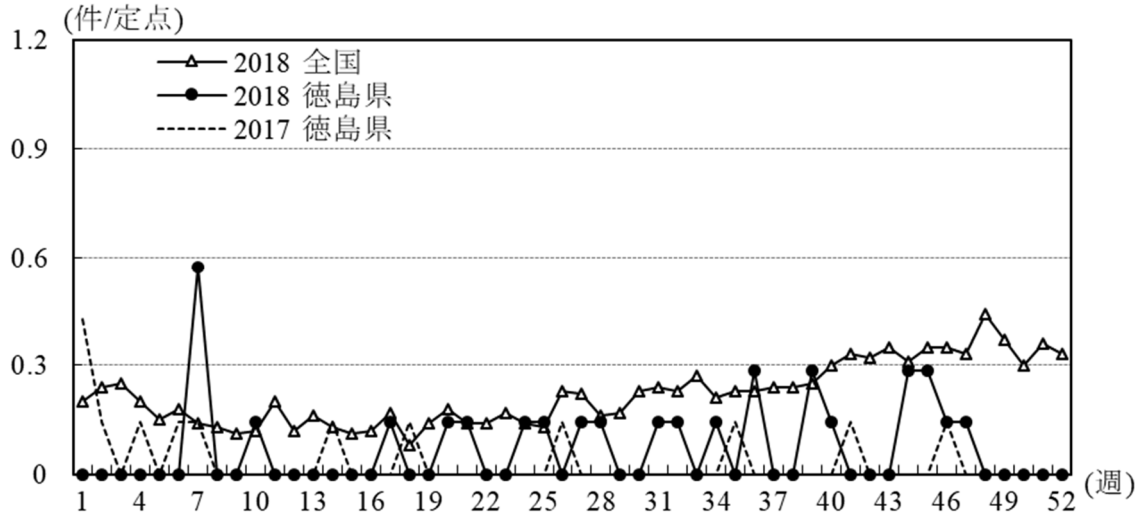
⑯　マイコプラズマ肺炎

2018 年の年間報告数は 26 件と、前年（13 件）から増加した。過去 5 年間では、年間 13～57 件で推移している。

本疾患は年間を通して発生するが、秋から冬にかけて報告数が増加するとされる。本年は季節的な特徴は見られず、年間を通して低値（0～0.57 件／定点）で推移した。

年齢層別報告数では、幼児から成人まで報告されるが、学童期、青年期に多いとされる。5 歳未満 30.8%、5～9 歳 46.2%、10 歳代 15.4%、20 歳代以上 7.7%と幅広い年齢層から報告されたものの、学童期を含む 10 歳未満からの報告数（約 77%）が他の年齢層に比べ多かった。

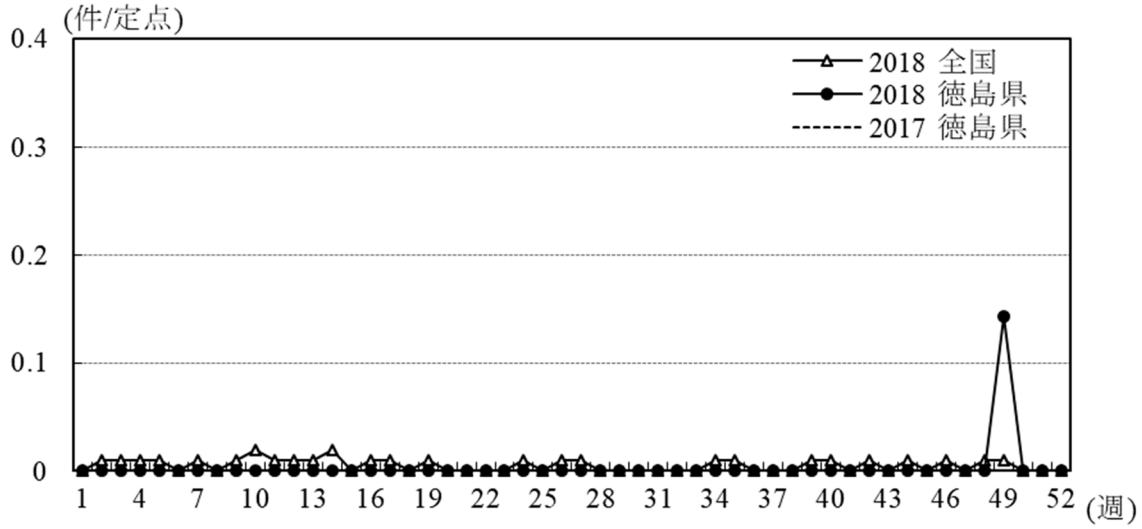
マイコプラズマ肺炎の週別患者報告状況



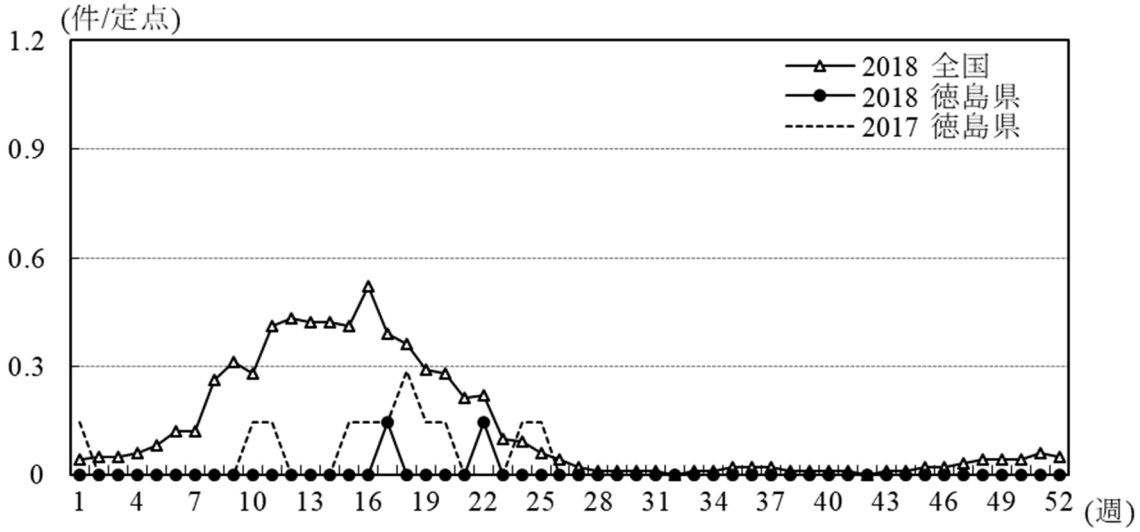
⑰　クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2018 年の年間報告数は 1 件（80 歳代以上）であった。過去 5 年間では、毎年 0～1 件で推移している。

クラミジア肺炎の週別患者報告状況



⑱　感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2018 年の年間報告数は 2 件（1 歳、2 歳）と、前年（12 件）から減少した。過去 5 年間では、2016 年が 58 件と最も多かった。例年、年当初から春先にかけて多く報告され、夏季は減少するなど、季節的な特徴も見られたが、本年は年間を通して低値（0～0.14 件／定点）で推移した。

感染性胃腸炎（ロタウイルス）の週別患者報告状況